

議案外質問(6月22日) 藤井ひろき議員

市営住宅

## 「10回も抽選に落ちた」「空き部屋があるのに応募できない」 単身高齢者向けに、入居基準の緩和を

藤井ひろき議員は22日の本会議で、単身高齢者向けの市営住宅の確保策について質問しました。

### 単身者向け市営住宅が足りない

「市営住宅に入りたくても入れない」「10回申し込んでも抽選に落ち続けている」。藤井議員は、生活相談で寄せられた市民の訴えや、昨年度の単身高齢者向け市営住宅の応募倍率が14.3倍だったことを示し、「単身高齢者が今後増えることが予想されるなかで、住宅セーフティネットとして中心的な役割を担う市営住宅をどう提供していくのか」と質しました。

### 空いているのに応募できない住宅も

藤井議員はさらに、「一方で、なかなか応募がない市営住宅もある」と指摘。一般向け住宅のなかには、先着順で募集したにもかかわらず、申込者が6割台にとどまり、一年経っても申込がない住戸もある実態を紹介しました。

藤井議員は「空き部屋のなかには、単身者向け住戸の床面積基準(55㎡以下)をわずか0.1コンマ数㎡上回るものも多数ある。しかし、畳半畳以下でも基準を上回っていたら単身者は応募できない」と強調。

### 単身者が入居できるよう基準緩和を

藤井議員は、面積基準を緩和して、単身者の空き部屋入居をすすめている浜松・神戸市の例をあげ、「(団地入居者の)世代間バランスを取りつつ、本市

も、一般募集で応募がなかった住宅については、面積基準を引き上げてはどうか」と提案しました。

### 研究をすすめる(局長)

これに対し住宅都市局長は、「単身者からの市営住宅へのニーズは、依然として高い状況と認識している。市営住宅の高齢化の状況を十分に踏まえつつ、指摘された他都市の取組み等も参考にしながら、引き続き研究を進めたい」と前向きな答弁をしました。

### 自治会活性化は若年世帯の入居が不可欠

藤井議員は、「若い世帯がなかなか入居しないので、地域のコミュニティを成り立たせるのも大変」など、市営住宅の自治会役員の声を紹介。田口一登議員の提案で実現した、市営高坂荘(天白区)のリノベーションモデル事業(地域コミュニティ形成モデル事業)に触れ、「若い世帯の入居を促進し、市営住宅のコミュニティを活性化するために、リノベーションとともに、部分改装を進めるべきだ」と提起しました。

住宅都市局長は「モデル事業の検証結果などを踏まえ、引き続き取り組んでいきたい」と答えました。



## 配食サービス利用料、 介護オムツ代…

## 在宅介護／介護保険外でも重い負担 実態を把握し、市独自の軽減策を

藤井ひろき議員は、在宅介護サービスを利用している低所得高齢者の家計負担について質問しました。

藤井議員は、妻を介護する80代の男性の例を紹介。月の介護保険利用料は自己負担上限の24,600円ですが、他にも配食サービス利用で19,200円、紙オムツ代3000円などの負担があり、あわせて月5万円を超す介護費用がかかっています。

藤井議員は、愛知県内54自治体中21市町が介護サービス利用料の低所得者減免を実施していると述べ、「在宅介護の場合、介護保険以外にも重い負担がかか

る。まずはデイサービスやヘルパーなどの利用料を軽減すべきではないか」と求めました。

これに対し健康福祉局長は「介護保険制度は『全国一律』制度なので負担軽減は法制度の枠組みの中で対応すべき。国に要望している」と答弁。

藤井議員は「保険外の負担は『全国一律』ではない。介護支援給付費や紙オムツの支給などを行なっている自治体もある。低所得高齢者の負担や実態を、直接聞き取り調査を行って把握し、市独自に利用者負担の軽減に取り組むよう強く要望する」と求めました。